

学 習 日 誌

12月9日(金)	講 師	元毎日新聞記者 長谷川 孝 氏
出席者数	35名	記 録 者 3年10班 田中 久雄
講 座 名	社会的課題講座3 「プーチンのウクライナ侵攻」=「不寛容の極致としての軍事的暴挙」	
プログラム担当者	社会的課題講座グループ 佐々木 邦彦さん	
時 間・場 所	13:30 ~ 15:30、第一集会室	

【学習内容】

配布された資料（毎日新聞の最近の記事 および さがみ9条の会のニュース55号から）

- ① ヒトはなぜ戦争をするのか アインシュタインとフロイトの往復書簡 堀江宏美
- ② 戦争を止める「個人の尊重」 精神科医・斎藤環さん「心」で読むウクライナ侵攻
- ③ 多様な「日本人」享受を 英誌エコノミスト デイビッド・マックニール記者

最新のホットなトピックがいろいろ取り上げられましたが、まずウクライナ侵攻に関してプーチン大統領の2つの発言に注目されました。1つ目は「領土を拡大出来たことは成果のひとつ」、2つ目は「核戦争の脅威が増している」という発言です。上の資料①と②に触れ、キエフ公国に始まるロシアとウクライナの深い歴史的関係にも拘わらず生じた争いは、アインシュタインとフロイトという世界の英知に照らしても解決策を見いだせない。ましてや国連機関等による世界的平和軍の軍事力を背景にした組織では解決はみられない。攻撃や破壊への衝動、生や死への衝動は人間の性(さが)で、その衝動をコントロールできる知性を生み出す文化の発展こそが、人間が戦争を忌避できる可能性をもつと二人の碩学は示唆しているとのこと。つまり、究極的には戦争を止めたり回避するためには、個人の尊厳を尊重する文化の発展により「知性を強めること」しかないのであろうか。

約2時間の間に実に様々・広汎多岐に亘る事柄に言及されました。それら矢継ぎ早に繰り出されるお話の脈絡を辿りながらここに記すことは難しく、以下それらを列挙するに留めます。

- ・岸田政権の政治手続については国会軽視/与党内合意を取らない/閣議決定のみ/首相了解事項として多々進められる。国葬実施、軍拡を目指す防衛予算の増大、敵基地攻撃能力の検討など
- ・安倍元首相の銃撃事件、これを契機とした旧統一教会問題、宗教2世と救済に関する法制化等
- ・国葬に関してはその対象者と実施手続き、人の功績の序列化としての叙勲行為(勲1等など)
- ・人権感覚 道徳教育 学習指導要領 交差性
- ・ナショナリズムと排他性
- ・個人の尊厳と差別(国籍/人種/性/年齢/ヘイトスピーチなど)、その他。

【感想】たくさんのお話を伺うことが出来、認識を新たにすることばかり。話されたことは事実の部分とそれらに関しての講師自身のお考えとして拝聴しました。ただ、「日本国憲法と国民主権」のお話については「えっ？」と思う点もありましたが、ひとの考え方・受け止め方を寛容さをもって多様性を認める。それはまさに講師に教わったばかりのこの実践だと思っているところです。